

第128回

トラック運送業界の景況感（速報）

令和6年10月～12月期

2024年12月の日銀短観によれば、大企業製造業の業況判断DIは前回調査から1ポイント上昇し「14」となった。これは2四半期連続の改善であり、製造業全体の景況感が回復傾向にあることを示すものである。

こうしたなか、トラック運送業界では、運賃や料金は改善基調にあるものの、燃料費や物価の上昇に伴うコスト増分を十分に転嫁できず、営業利益の改善には至っていない。一方で、実働率や実車率の向上により輸送効率が改善し、さらに輸送数量も増加した結果を受け、業界の景況感は前回の▲29.1から▲18.2へと10.9ポイント改善した。

来期（2025年1月～3月期）の見通しは、引き続き人手不足や物価高の影響が続くと予測されることから、景況感は今回の▲18.2から▲26.6へと8.4ポイント悪化する見込みである。

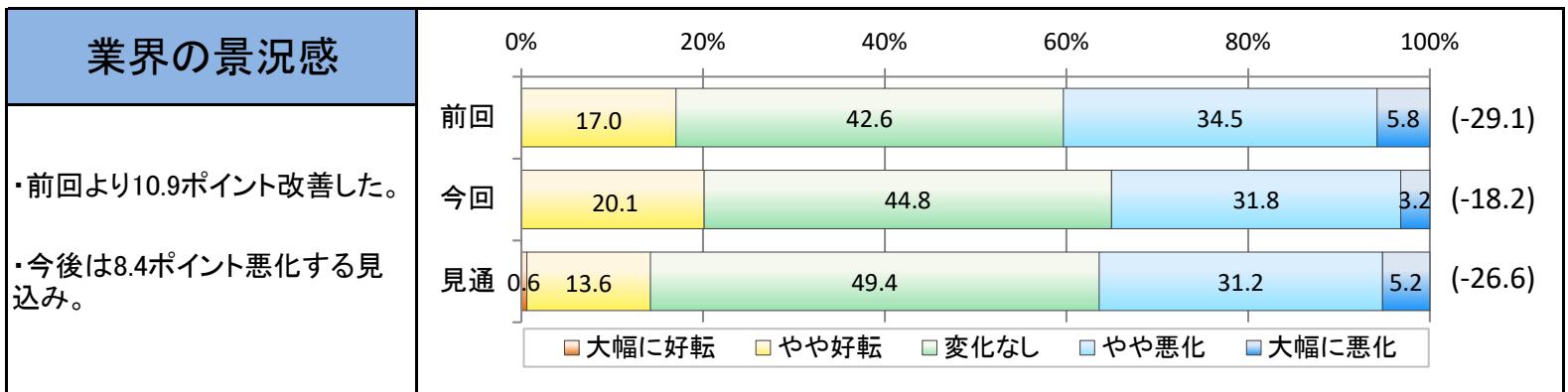
トラック運送業界は輸送量や運賃の上昇により一時的に景況感が改善したものの、依然としてコスト上昇圧力が強く、利益を圧迫する事業環境が今後も継続することが示唆される。

令和7年2月10日

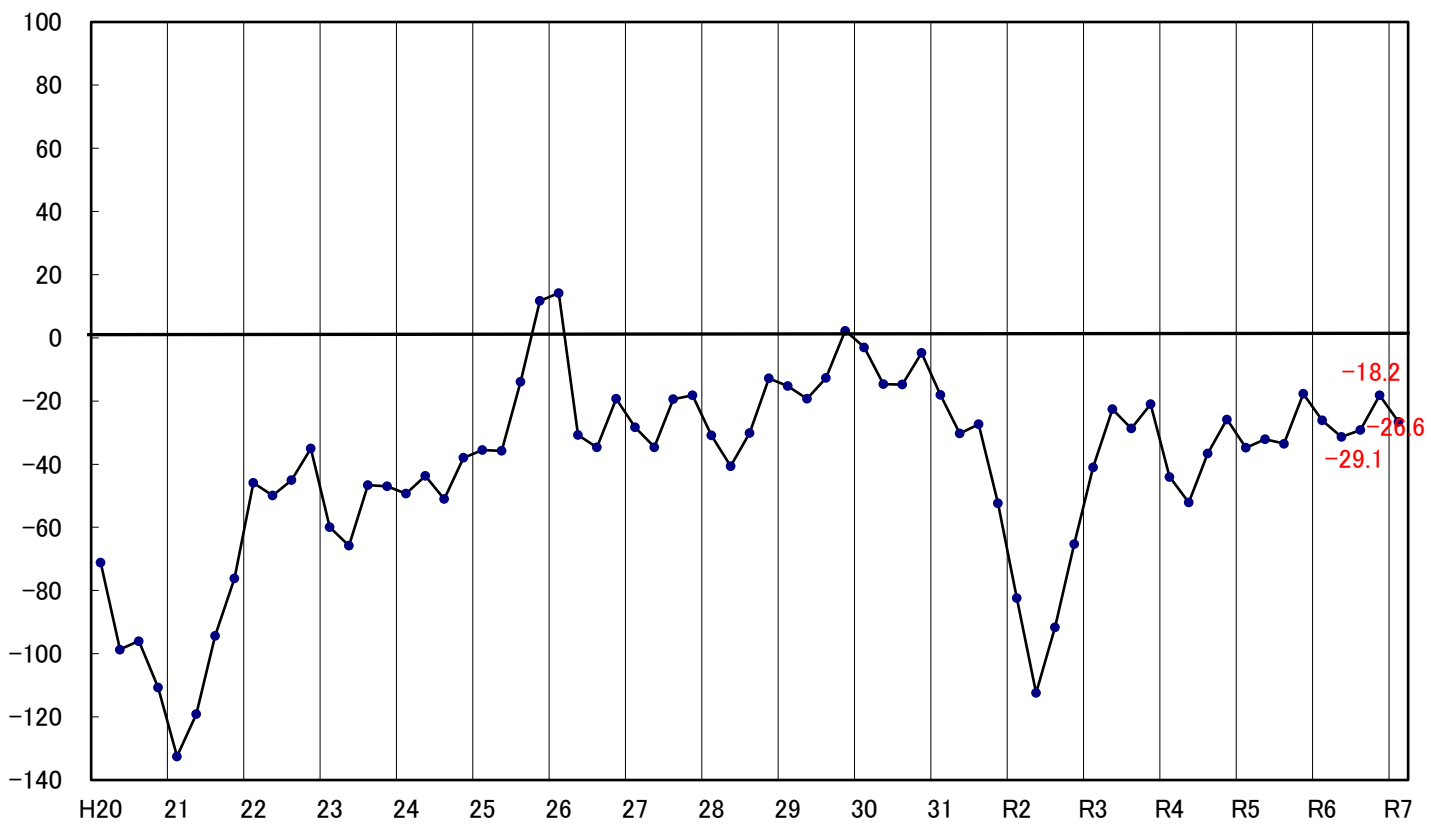
公益社団法人 全日本トラック協会

1 業界の景況感:今回(令和6年10月~12月期)の概況と今後の見通し

今回の状況	・実働率や実車率の向上により輸送効率が改善し、さらに輸送数量も増加した結果を受け、前回の▲29.1から▲18.2へと10.9ポイント上昇した。
今後の見通し	・来期の見通しは、人材不足や物価上昇によるコスト増加の影響を受け、業界の景況感は、▲26.6(今回▲18.2)と8.4ポイント悪化の見込みである。



トラック運送業界の景況感の推移(H20以降)



(注1) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の上段は前回(R6.7月~9月期)の状況、中段は今回(R6.10月~12月期)の状況、下段は今後(R7.1月~3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比の回答である。

(注2) 各グラフ(3段の横棒グラフ)の構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) 各グラフ(3段の横棒グラフ)右側にあるカッコ内は判断指数。各判断指数は、各設問の回答に対し、「大幅に増加・上昇・好転、労働力不足」は+2、「やや増加・上昇・好転、労働力不足」は+1、「横ばい」は0、「やや減少・低下・悪化、労働力過剰」は-1、「大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰」は-2の点数に置き換え、平均を100倍することにより各判断指数を算出している。

$$A(\text{設問Aの回答者数}) = a1+a2+a3+a4+a5(\text{設問Aの選択肢1~5の回答数の和})$$

$$\text{指標} = \{(+2 \times a1) + (+1 \times a2) + (0 \times a3) + (-1 \times a4) + (-2 \times a5)\} \div A \times 100$$

2 共通の概況①: 今回(令和6年10月～12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実働率は▲0.6(前回▲19.7)と19.1ポイント改善、実車率は0.6(前回▲21.1)と21.7ポイント改善し、輸送効率は改善した。 ・ 運転者の採用動向は▲4.5(前回▲21.5)と17.0ポイント上昇、運転者の雇用動向(労働力の不足感)は84.4(前回79.4)と5.0ポイント上昇し、依然として業界全体で人手不足が続いている。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実働率は0.6(今回▲0.6)と1.2ポイント改善、実車率は▲1.3(今回0.6)と1.9ポイント悪化する見込みである。 ・ 運転者の採用動向は▲8.4(今回▲4.5)と3.9ポイント低下し、運転者の雇用動向は96.8(今回84.4)と12.4ポイント上昇し、労働力の不足感は一段と強くなる見込みである。

実働率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 18.8 48.9 26.0 6.3 (-19.7)</p> <p>今回 22.7 55.8 19.5 1.9 (-0.6)</p> <p>見通 18.8 63.0 15.6 1.9 (0.6)</p> <p> ■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下 </p>
実車率	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 14.3 55.6 24.7 5.4 (-21.1)</p> <p>今回 19.5 63.6 14.9 1.9 (0.6)</p> <p>見通 17.5 64.9 16.2 1.3 (-1.3)</p> <p> ■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや低下 ■ 大幅に低下 </p>
運転者の採用動向	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 13.9 59.6 17.5 9.0 (-21.5)</p> <p>今回 15.6 68.2 12.3 3.9 (-4.5)</p> <p>見通 13.6 68.2 14.3 3.9 (-8.4)</p> <p> ■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少 </p>
運転者の雇用動向 (労働力の不足感)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 20.2 42.2 34.5 3.1 (79.4)</p> <p>今回 20.1 45.5 33.1 1.3 (84.4)</p> <p>見通 24.7 48.7 25.3 1.3 (96.8)</p> <p> ■ 不足 ■ やや不足 ■ 適当 ■ やや過剰 ■ 過剰 </p>

(注4) 雇用状況については、上段は前回(R6.7月～9月期)の状況、中段は今回(R6.10月～12月期)の状況、下段は今後(R7.1月～3月期)の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を集計している。

3 共通の概況②:今回(令和6年10月~12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> • 所定外労働時間は▲35.1(前回▲40.4)と5.3ポイント増加、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は▲1.9(前回▲17.0)と15.1ポイント増加した。 • 経常損益は▲2.6(前回▲10.8)と8.2ポイント改善した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> • 所定外労働時間は▲29.9(今回▲35.1)と5.2ポイント増加し、貨物の再委託は▲5.2(今回▲1.9)と3.3ポイント減少の見込みである。 • 経常損益は▲10.5(今回▲2.6)と7.9ポイント悪化する見込みである。

所定外労働時間	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>大幅に増加</th> <th>やや増加</th> <th>横ばい</th> <th>やや減少</th> <th>大幅に減少</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>1.3</td> <td>5.8</td> <td>46.2</td> <td>44.4</td> <td>2.2</td> <td>(-40.4)</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>0.0</td> <td>10.4</td> <td>48.7</td> <td>36.4</td> <td>4.5</td> <td>(-35.1)</td> </tr> <tr> <td>見通</td> <td>0.0</td> <td>7.1</td> <td>59.1</td> <td>30.5</td> <td>3.2</td> <td>(-29.9)</td> </tr> </tbody> </table> <p> ■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少 </p>	項目	大幅に増加	やや増加	横ばい	やや減少	大幅に減少	ポイント	前回	1.3	5.8	46.2	44.4	2.2	(-40.4)	今回	0.0	10.4	48.7	36.4	4.5	(-35.1)	見通	0.0	7.1	59.1	30.5	3.2	(-29.9)
項目	大幅に増加	やや増加	横ばい	やや減少	大幅に減少	ポイント																							
前回	1.3	5.8	46.2	44.4	2.2	(-40.4)																							
今回	0.0	10.4	48.7	36.4	4.5	(-35.1)																							
見通	0.0	7.1	59.1	30.5	3.2	(-29.9)																							
貨物の再委託 (下請運送会社への委託割合)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>大幅に増加</th> <th>やや増加</th> <th>変わらない</th> <th>やや減少</th> <th>大幅に減少</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>0.0</td> <td>13.9</td> <td>60.1</td> <td>21.1</td> <td>4.9</td> <td>(-17.0)</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>0.6</td> <td>18.2</td> <td>63.0</td> <td>14.9</td> <td>3.2</td> <td>(-1.9)</td> </tr> <tr> <td>見通</td> <td>1.3</td> <td>13.6</td> <td>66.9</td> <td>14.9</td> <td>3.2</td> <td>(-5.2)</td> </tr> </tbody> </table> <p> ■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大幅に減少 </p>	項目	大幅に増加	やや増加	変わらない	やや減少	大幅に減少	ポイント	前回	0.0	13.9	60.1	21.1	4.9	(-17.0)	今回	0.6	18.2	63.0	14.9	3.2	(-1.9)	見通	1.3	13.6	66.9	14.9	3.2	(-5.2)
項目	大幅に増加	やや増加	変わらない	やや減少	大幅に減少	ポイント																							
前回	0.0	13.9	60.1	21.1	4.9	(-17.0)																							
今回	0.6	18.2	63.0	14.9	3.2	(-1.9)																							
見通	1.3	13.6	66.9	14.9	3.2	(-5.2)																							
経常損益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>大幅に好転</th> <th>やや好転</th> <th>変化なし</th> <th>やや悪化</th> <th>大幅に悪化</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前回</td> <td>0.9</td> <td>27.8</td> <td>37.2</td> <td>27.8</td> <td>6.3</td> <td>(-10.8)</td> </tr> <tr> <td>今回</td> <td>0.6</td> <td>28.6</td> <td>40.9</td> <td>27.3</td> <td>2.6</td> <td>(-2.6)</td> </tr> <tr> <td>見通</td> <td>0.7</td> <td>18.3</td> <td>54.2</td> <td>23.5</td> <td>3.3</td> <td>(-10.5)</td> </tr> </tbody> </table> <p> ■ 大幅に好転 ■ やや好転 ■ 変化なし ■ やや悪化 ■ 大幅に悪化 </p>	項目	大幅に好転	やや好転	変化なし	やや悪化	大幅に悪化	ポイント	前回	0.9	27.8	37.2	27.8	6.3	(-10.8)	今回	0.6	28.6	40.9	27.3	2.6	(-2.6)	見通	0.7	18.3	54.2	23.5	3.3	(-10.5)
項目	大幅に好転	やや好転	変化なし	やや悪化	大幅に悪化	ポイント																							
前回	0.9	27.8	37.2	27.8	6.3	(-10.8)																							
今回	0.6	28.6	40.9	27.3	2.6	(-2.6)																							
見通	0.7	18.3	54.2	23.5	3.3	(-10.5)																							

【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第128回調査は、令和7年1月1日に、モニターに対して調査開始、令和7年1月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者全体
70	460	471

4 一般貨物:今回(令和6年10月~12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、運賃・料金の水準は47.1(前回47.2)と0.1ポイント悪化したものの、輸送数量は1.3(前回▲15.6)と16.9ポイント改善したことから、営業収入(売上高)は3.3(前回2.4)と0.9ポイント改善した。 営業利益は原価の上昇が収益に影響を与え、▲6.1から▲9.2へと3.1ポイント悪化した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 一般貨物では、輸送数量は0.7(今回1.3)と0.6ポイント悪化、運賃・料金の水準は37.9(今回47.1)と9.2ポイント悪化することから、営業収入(売上高)は2.0(今回3.3)と1.3ポイント悪化する見込みである。 営業利益は、▲9.8(今回▲9.2)と0.6ポイント悪化する見込みである。

輸送数量	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 26.4 37.3 30.7 5.7 (-15.6)</p> <p>今回 3.3 27.5 39.2 27.5 2.6 (1.3)</p> <p>見通 2.6 26.1 41.2 29.4 0.7 (0.7)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> <p>・前回より16.9ポイント改善した。 ・今後は0.6ポイント悪化する見込み。</p>
運賃・料金の水準	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 0.5 48.6 49.1 1.4 (47.2)</p> <p>今回 1.3 47.1 49.7 1.3 (47.1)</p> <p>見通 41.8 54.9 2.6 (37.9)</p> <p>■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落</p> <p>・前回より0.1ポイント悪化した。 ・今後は9.2ポイント悪化する見込み。</p>
営業収入(売上高)	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 34.9 35.8 25.9 3.3 (2.4)</p> <p>今回 36.6 34.0 25.5 3.9 (3.3)</p> <p>見通 30.1 43.8 24.2 2.0 (2.0)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> <p>・前回より0.9ポイント改善した。 ・今後は1.3ポイント悪化する見込み。</p>
営業利益	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>前回 1.4 28.3 37.3 28.8 4.2 (-6.1)</p> <p>今回 1.3 26.1 39.2 28.8 4.6 (-9.2)</p> <p>見通 0.7 23.5 43.8 29.4 2.6 (-9.8)</p> <p>■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少</p> <p>・前回より3.1ポイント悪化した。 ・今後は0.6ポイント悪化する見込み。</p>

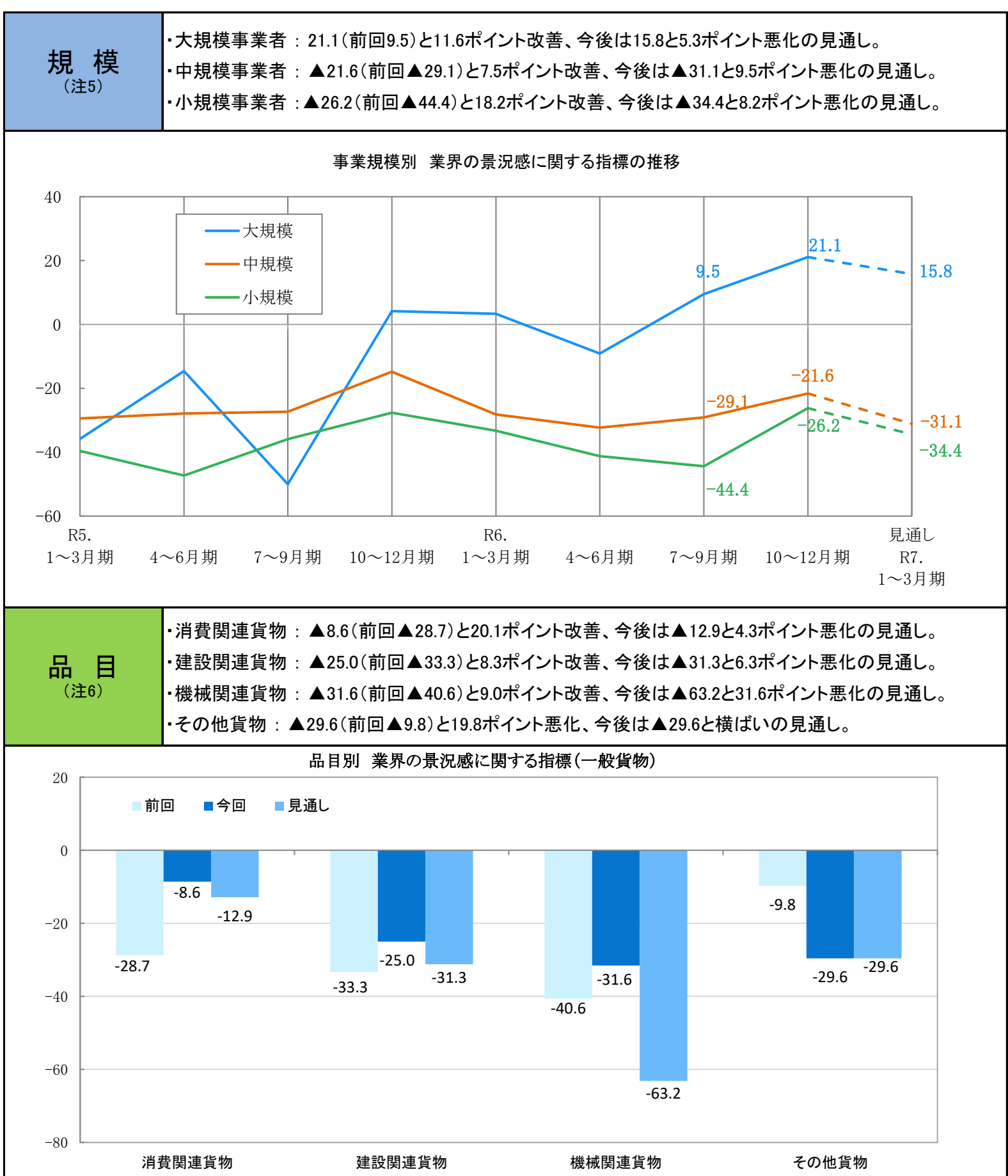
5 特積貨物:今回(令和6年10月~12月期)の状況と今後の見通し

今回の状況	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、輸送数量は6.5(前回0.0)と6.5ポイント改善、運賃・料金の水準は38.7(前回30.0)と8.7ポイント改善した。営業収入(売上高)は3.2(前回5.0)と1.8ポイント悪化した。 営業利益は▲3.2(前回▲5.0)と1.8ポイント改善した。
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 特積貨物では、輸送数量は3.2(今回6.5)と3.3ポイント悪化、運賃・料金の水準は41.9(今回38.7)と3.2ポイント改善することから、営業収入(売上高)は6.5(今回3.2)と3.3ポイント改善する見込みである。 営業利益は3.2(今回▲3.2)と6.4ポイント改善する見込みである。

輸送数量	0%	20%	40%	60%	80%	100%
前回						(0.0)
今回						(6.5)
見通						(3.2)
	■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少					
運賃・料金の水準	0%	20%	40%	60%	80%	100%
前回						(30.0)
今回						(38.7)
見通						(41.9)
	■ 大幅に上昇 ■ やや上昇 ■ 横ばい ■ やや下落 ■ 大幅に下落					
営業収入(売上高)	0%	20%	40%	60%	80%	100%
前回						(5.0)
今回						(3.2)
見通						(6.5)
	■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少					
営業利益	0%	20%	40%	60%	80%	100%
前回						(-5.0)
今回						(-3.2)
見通						(3.2)
	■ 大幅に増加 ■ やや増加 ■ 横ばい ■ やや減少 ■ 大幅に減少					

※前回調査より、特積貨物として「宅配貨物」「宅配以外の貨物」を統合した指数に変更した。

6 事業者特性別の特徴①:規模別・品目別 業界の景況感



(注5) 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

(注6) 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

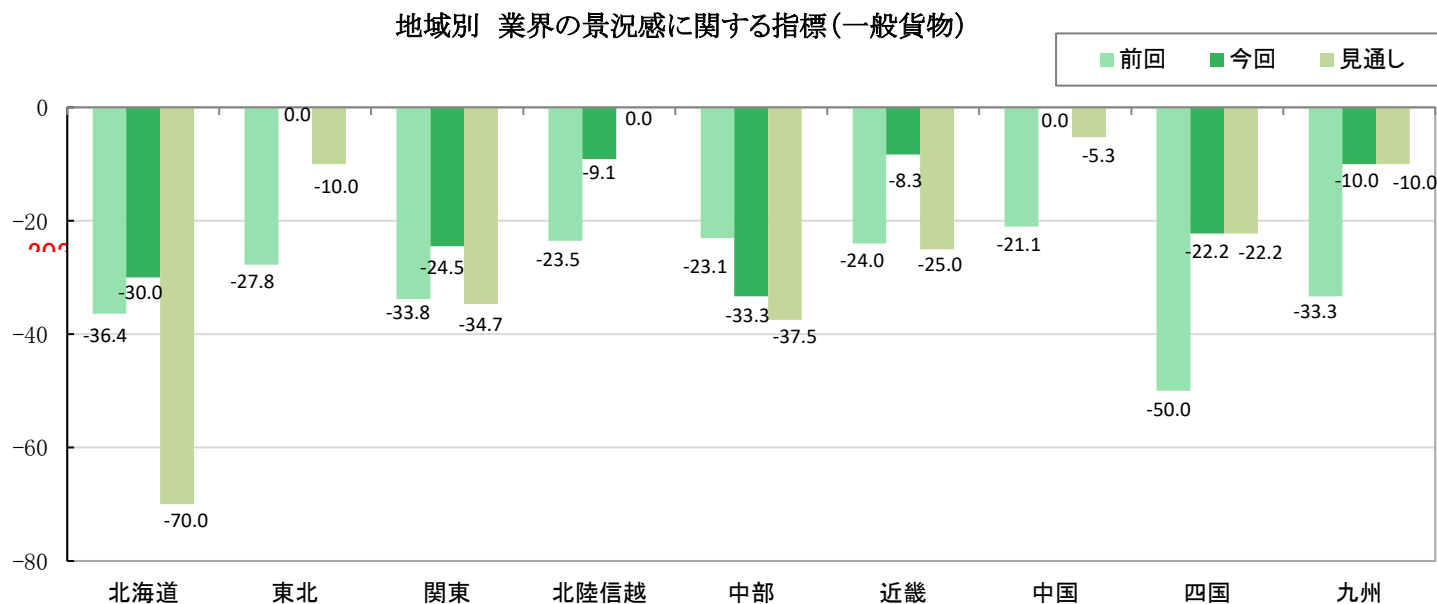
その他貨物：石炭、原油、石油、化学、紙・パルプなど

品目別業界の景況感に関する指標は、「一般貨物」の輸送品目について1位の回答を反映している。

7 事業者特性別の特徴②:地域別・事業形態別 業界の景況感等

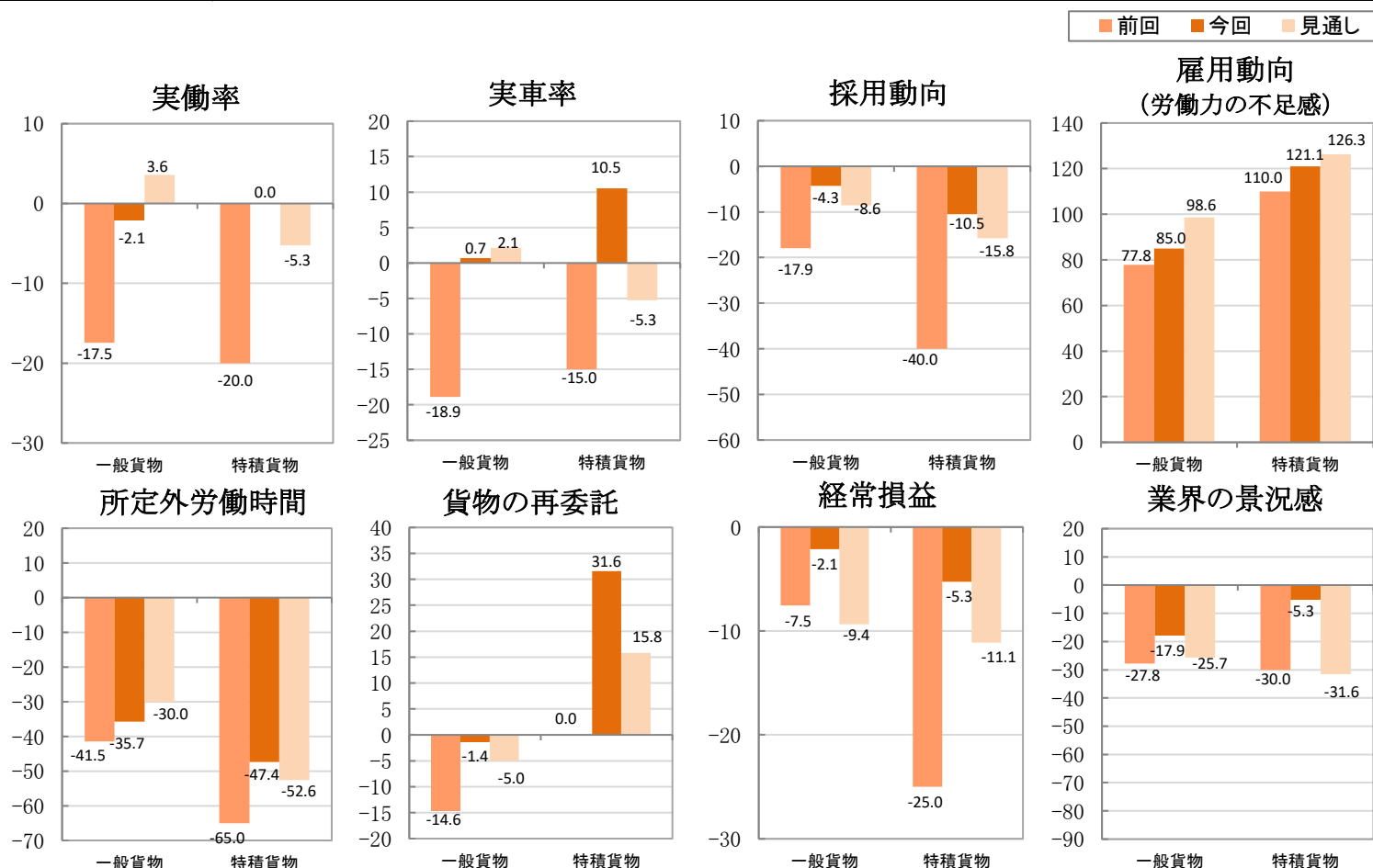
地域 (注7)

- 地域別の今期実績は、中部を除く地域で改善した。
- 来期の見通しは、北陸信越で改善、四国、九州は横ばい、前記3地域を除く地域で悪化する見込みである。



事業形態別 (注8)

- 採用状況は改善が見られたものの、雇用動向は前回と比較して労働力の不足感が一層強まった。
- 所定外労働時間は、2024年問題への対応の結果として減少傾向にあったが、人材不足の影響により、やや増加傾向に転じた。
- 業界の景況感については、一般貨物が▲17.9、特積貨物が▲5.3ポイントと、いずれも改善を示した。

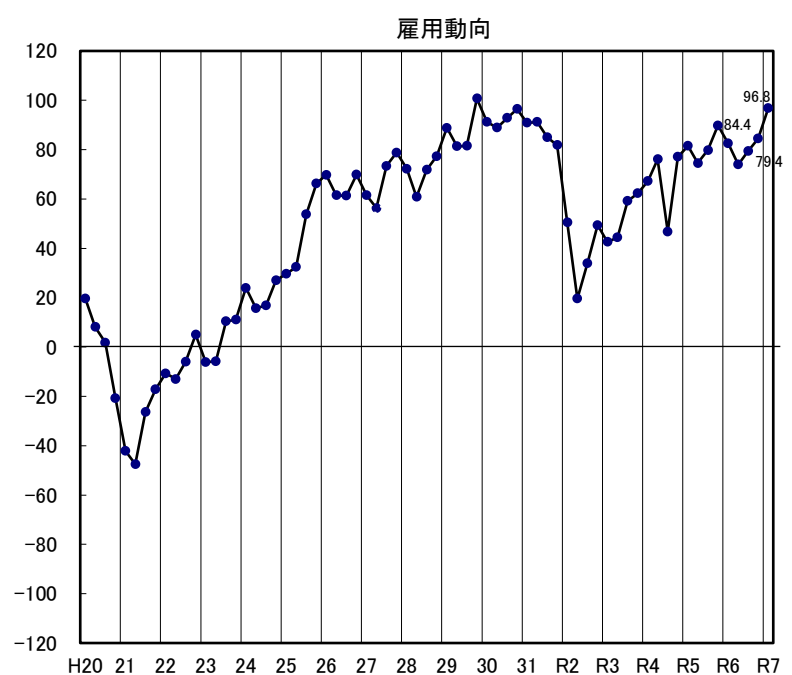
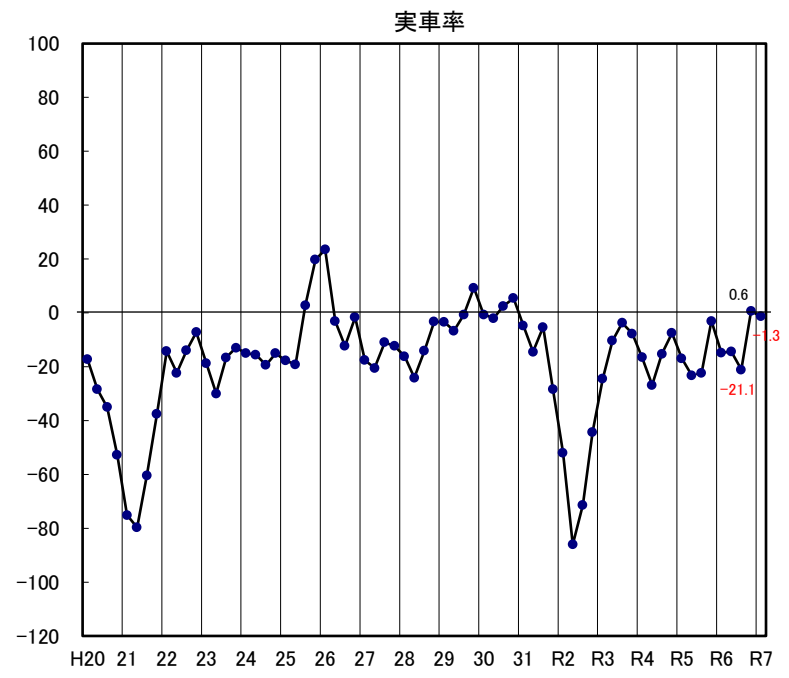
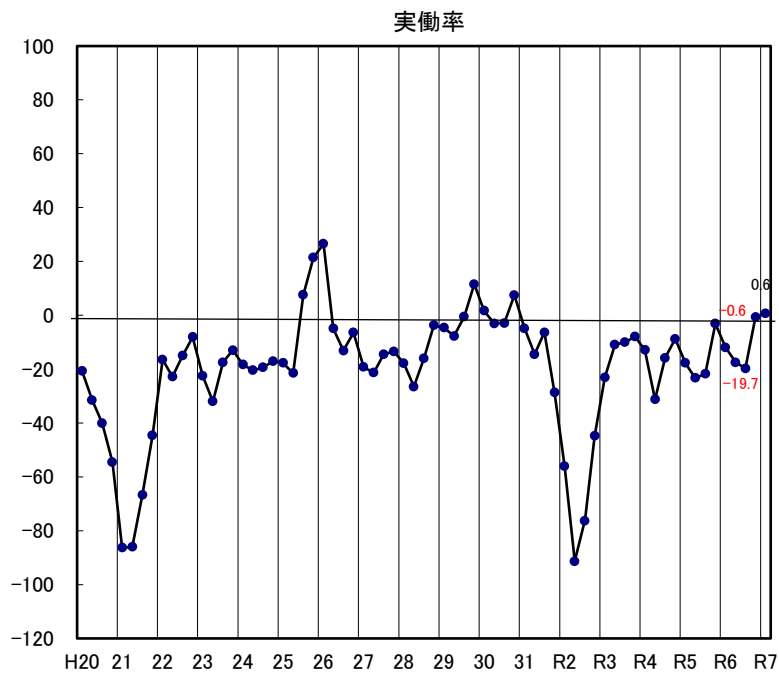


(注7) 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。なお、グラフは一般貨物の事業者のみ集計している。

(注8) 事業形態の分類は、「一般貨物」及び「特積貨物」である。

8 業況判断指標の推移(平成20年～令和6年度第4四半期見通し)

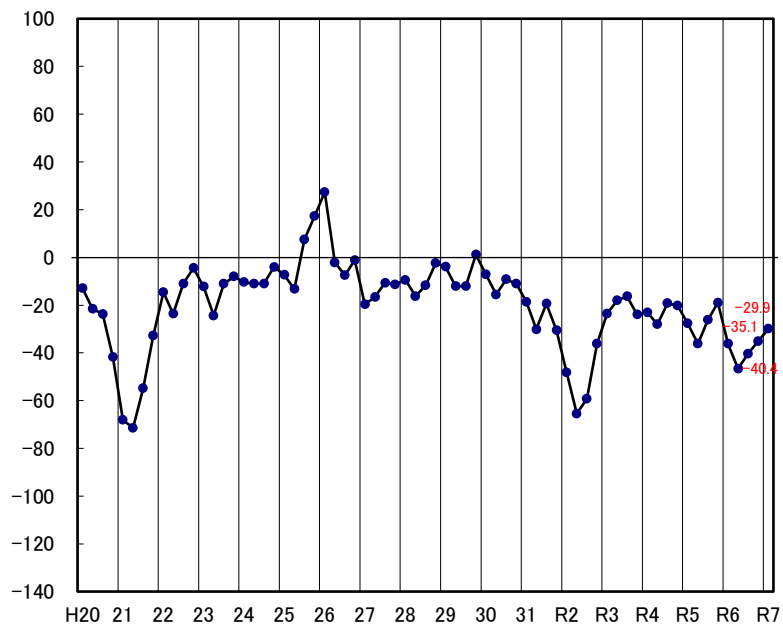
共通の概況①



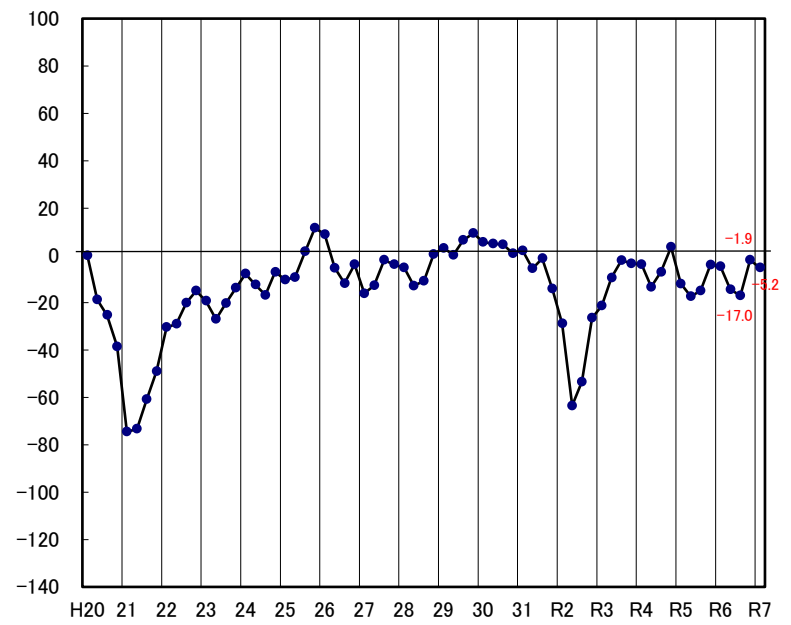
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和6年度第4四半期見通し)

共通の概況②

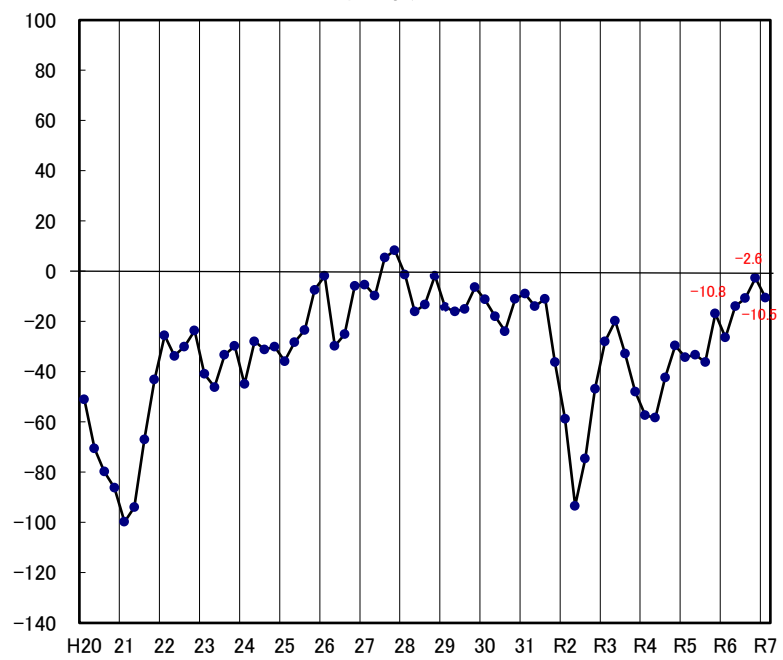
所定外労働時間



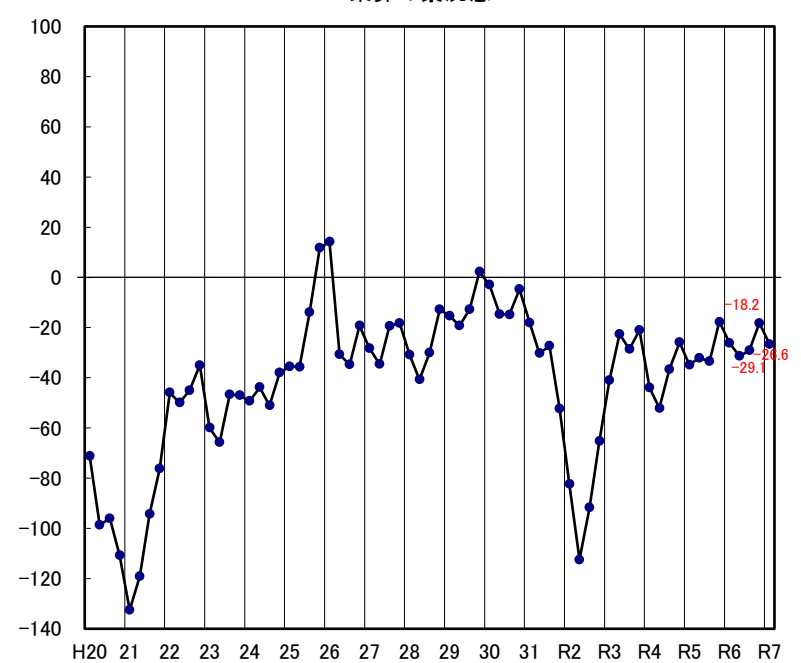
貨物の再委託



経常損益

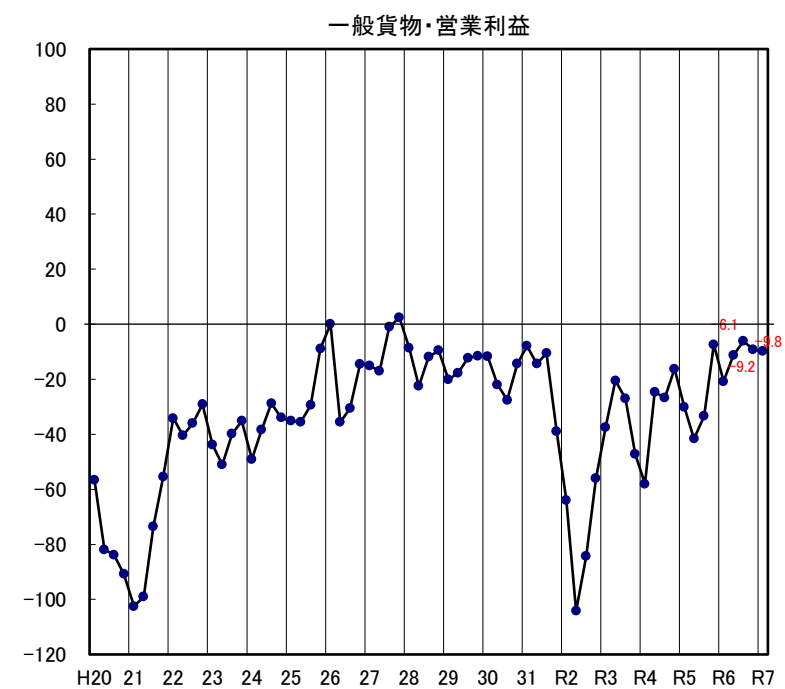
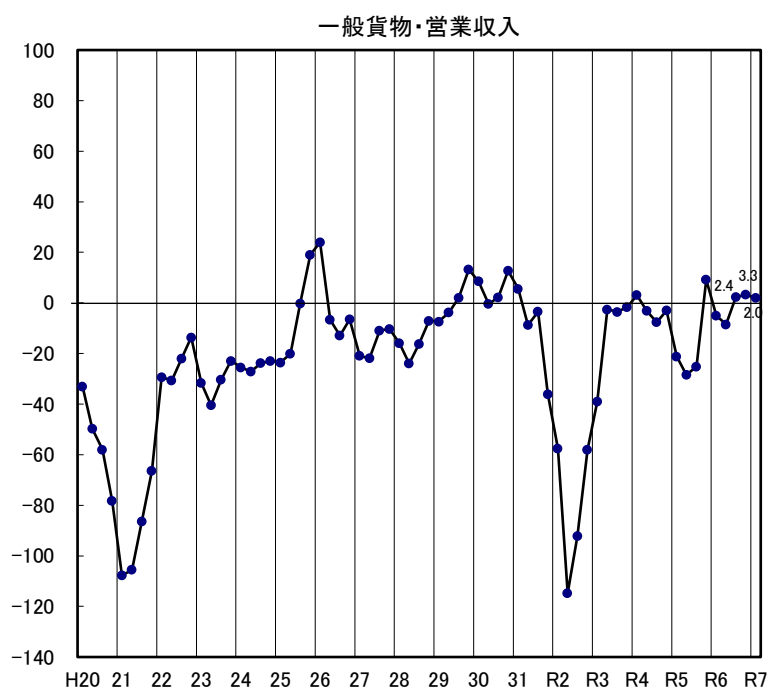
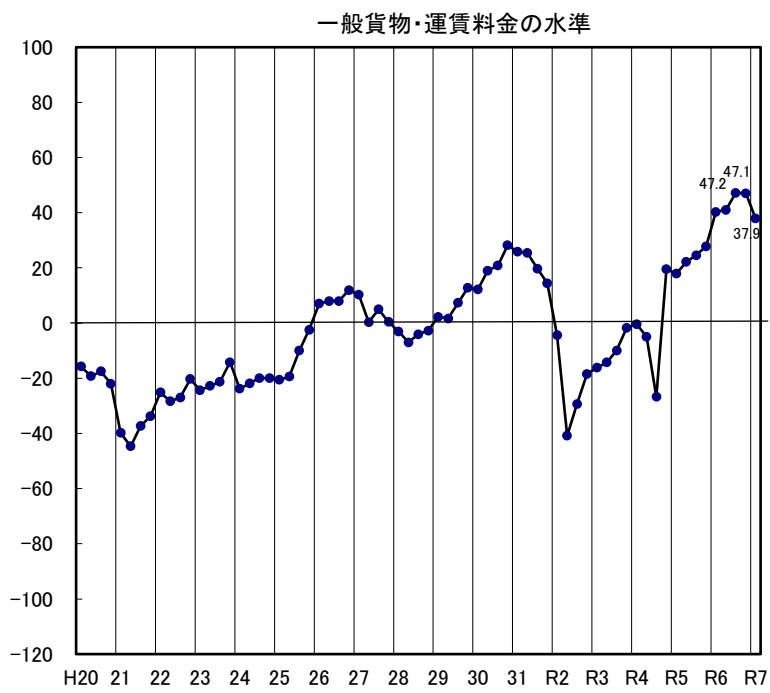
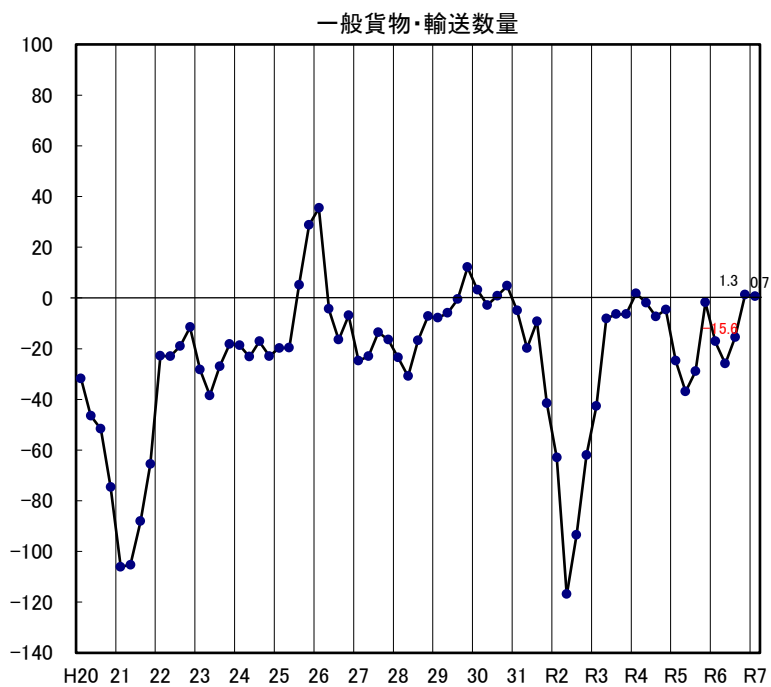


業界の景況感



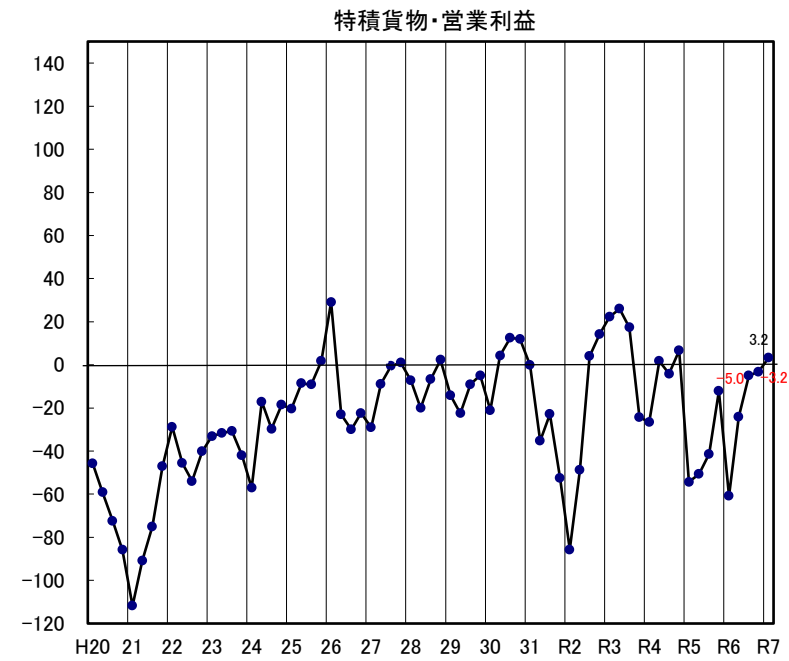
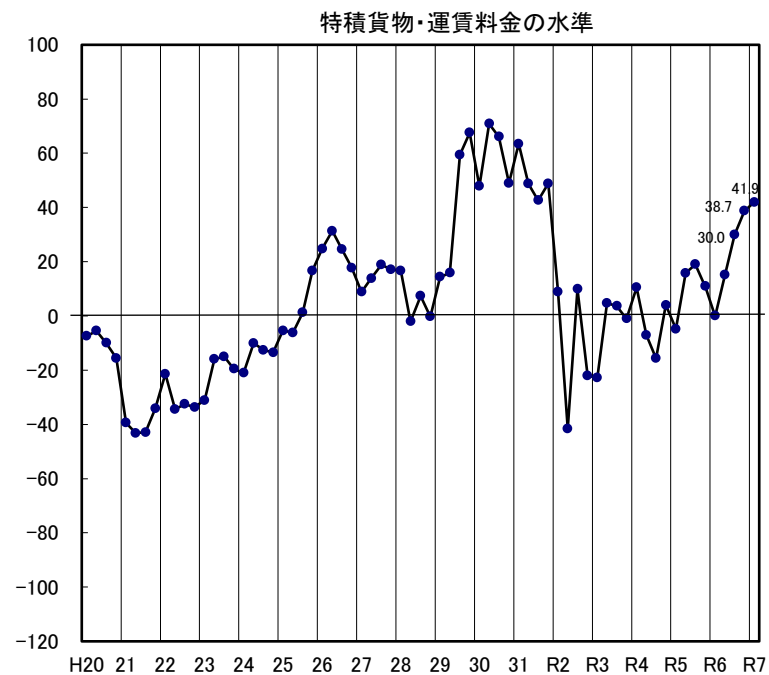
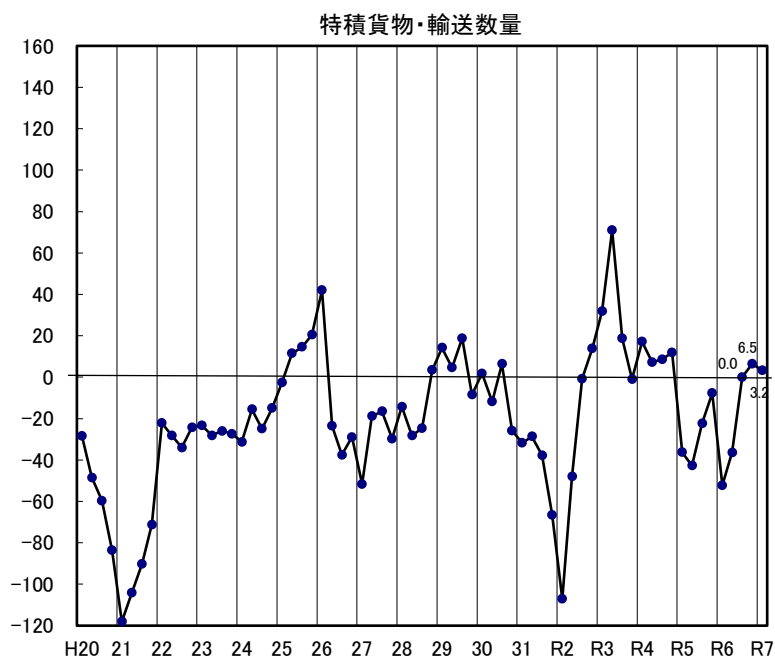
8 業況判断指標の推移(平成20年～令和6年度第4四半期見通し)

一般貨物



8 業況判断指標の推移(平成20年～令和6年度第4四半期見通し)

特積貨物



※前回調査より、特積貨物として「宅配貨物」「宅配以外の貨物」を統合した指数に変更した。